

令和2年度第2回 川崎市多摩川プラン推進会議

議事録

1 開催日時：令和3年3月1日（月）午後1時30分～午後3時00分

2 開催場所：川崎市役所第3庁舎7階 災害対策本部室

3 出席者：（敬称略）

会長	鈴木 誠	東京農業大学名誉教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
委員	松井 隆一	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	梅原 七重	市民公募
委員	堀 良通	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	小池 信行	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所総括地域防災調整官

4 議事

（1）令和2年度川崎市多摩川プラン実施事業及び「多摩川は今」について

（2）その他

5 傍聴者：なし

6 会議内容

【事務局】 それでは、令和2年度第2回多摩川プラン推進会議をはじめたいと思います。よろしくお願ひします。本日はオンライン会議ですが、10名中9名の委員にご出席いただいています。従って、川崎市附属機関設置条例第7条第2項に基づき、半数以上の委員のご出席により、本会議が成立していることをご報告します。

また、本会議は、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただくとともに、会議においては個々の発言者氏名を記載させていただきますので、あらかじめご了承願ひします。

それでは、開会に当たり、緑政部長の土田より、ごあいさつ申し上げます。

《緑政部長挨拶》

【緑政部長】 緑政部長の土田です。皆さん、こんにちは。今回は、オンライン会議にご協力いただきまして、誠に感謝申し上げます。この1年、コロナ禍の中、多摩川における取組は、イベント等の開催が難しい状況になっており、人の密集を避ける場所として、多くの市民が多摩川緑地に憩う姿が見受けられています。これは、市民の皆様方が多摩川の魅力を感じているということで、良い機会になっていると感じています。また、令和元年度の東日本台風の影響で被害に遭っていた多摩川の各施設についても、鋭意、職員の努力により、市民の皆さまの利用ができるような形で復旧完了ができています。市民の皆さまには、本当に大変ご迷惑を掛けました。

各々の取組については、後ほど事務局からご報告があると思いますが、今後も多摩川の魅力向上のため、新多摩川プランの着実な推進について、委員の皆さま方の忌憚（きたん）ないご意見を頂きたいと思っておりますので、本日はよろしく申し上げます。

【事務局】 それでは、これより進行については会長にお願いしたいと思っております。

【鈴木会長】 皆さん、改めまして、よろしく申し上げます。鈴木誠です。元気にやっています。うちは、近くが荒川ですけれども、週に何度も荒川で自然空気ワクチンをもらって、免疫力アップに努めています。皆さんも、健康にはぜひご留意ください。

さて、今日の議事は、メインが多摩川プランの実施事業、そして「多摩川は今」についてですので、まずは議事の第1番目から、事務局、ご説明をよろしく申し上げます。

《以下、令和2年度川崎市多摩川プラン実施事業及び「多摩川は今」についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。そうすると、今ので、説明は一通り終わったのですか。僕が冒頭で確認すれば良かったのですけれども、事務局で、この会議は条例によって、傍聴者がいる場合は公開というようなことをおっしゃったと思うのですが、このWebのミーティングで、傍聴者は現在いるのですか。

【事務局】 今日はいらっしゃいません。

【鈴木会長】 それで、傍聴の希望者は、どちらで、この会議のことを知るのですか。

【事務局】 会議の開催についてはホームページ上で公表しており、傍聴を希望される方は、我々と同じ会議室に来てもらえば、会議を傍聴ができるようになっています。

【鈴木会長】 そうですか。Zoomのミーティング参加ではなく、事務局が今セットしている、その会場に傍聴者は行くということですか。

【事務局】 はい。

【鈴木会長】 わかりました。今日は皆さん全員。先ほど、堀さんが遅れて入られましたけれども、その前は前段でしたから、ほとんど議事からはご参加いただけたと思います。それでは、ただ今事務局から説明していただいて、なおかつ、お手元にも資料がいつい

ると思いますけれども、本年度の多摩川プランの推進状況で、何かご質問やご意見がありましたらお願いしたいと思います。

【江原委員】 資料1ですが、実施事業の取組状況、あるいは今後の、来年度の取組予定が記されています。担当局がそれぞれ、さまざまになっているのですが、できるだけ数値化できるところは数値化していただけると、もっと分かりやすいのではないかと思います。ぜひ、そうしていただけるとありがたいと思います。

【鈴木会長】 数値化ですか

【江原委員】 そうです。具体化できるところについては数値化して回答をしている部署と、数値化されていない部署があるのですが、できるだけ具体的に数値化できるところは数値化して、分かりやすいような取組状況を記載していただければと思います。

【鈴木会長】 ありがとうございます。具体的に資料でいくと、どこどこを見れば、江原さんのおっしゃっていることが……。数値化している担当部局は、例えば年3回実施した、などということですか。それとも、取組状況が100%なのか、50%なのかとか、そういう状況のことでしょうか。そうではなく、参加者の人数とか……。

【江原委員】 進捗状況が、各担当局と同一的な視点で数値化できるような形にさせていただくと、より分かりやすい状況になるのではないかと思います。

【鈴木会長】 分かりました。事務局、今のご意見に対して、何かお考えがありましたら、お答え願います。今ご要望があったように、数値化していただければ比較することもでき、実施状況もよく理解ができるから、概念的なやった、やらないではなく、どれだけできたのかというような観点から、なるべく具体的な数値情報で実施状況を報告するように努めていただきたいということです。

【事務局】 今すぐ、どのような形かというのはあれですが、検討させていただきます。

【鈴木会長】 他はいかがですか。

【堀委員】 3点ほどですが、最初に、一番難しいことを要求したいと思います。というのは、資料2の「多摩川は今」の1ページ目の下に、今いろいろなところで話題になっている、SDGsの目標のシンボルマークが3つ出ています。ところが、この「多摩川は今」という中には、このSDGsの目標がどのように関わってきているのかということが全く触れられていないので、せっかくここに挙げたのであれば、確か川崎市も、市長を含めて、SDGs。今、全ての自治体を含めて、いろいろな企業もですが、SDGsが大きな課題になっていますので、こういうシンボルマークを挙げたのであれば、なお一層、ここに挙げてきているような基本目標、あるいは推進政策の中に、あるいは実施事業に、どのように関わってきているのかということ、啓蒙（けいもう）活動も含めて、難しいかもしれませんが、事務局でぜひその観点に触れていただきたいというのが、最初の要望です。

次が、資料1の令和2年度川崎市多摩川プラン実施事業の中の19番目に、「サイクリングコースの充実」というのがずっと挙げられてきていますが、確か「サイクリングコース」

という言葉はもう良くないということで、新しいロードの名前も応募でなされて、いろいろな、サイクリングしている人、歩行者、あるいは障害を持っている方を含めたロードということでやっていこうということが大きな方針だったと思います。

ところが、ここに改めて「サイクリングコースの充実」と書かれてくると、「あれ、じゃあ今まで議論していたことは一体何だったのか」ということにもなってしまいますので、この辺りを、ぜひ工夫していただきたいと思います。

それから3番目は、どうでしょうか。誤字の問題や細かいことですが、せっかくですので、2~3点だけ発言させてください。

まず、資料2の1ページ目の、写真の右側の囲みの、「多摩川は今、川崎市新多摩川プラン何々」と書いてあります。そこにE-mailが書いてありますけれども、@city.KawasakiのKは小文字にしていきたいと思います。

それから、6ページが出てきますか。③です。「環境学習・環境教育の推進」の「令和2年度の活用内容」というところに、「日にち」と書いてありますが、これは隣が「活動内容」となっていますので、「日にち」は「実施日」としたほうが分かりやすいと思いますので、そこは「実施日」と修正をしておいてください。

それから、その上のところに、「体験活動に参加する本市が公募で」と、「本市」でもいいのですが、私は「川崎市が」としたほうが、はっきりしていいのではないかと思います。それは、事務局で判断していただければいいと思います。主なところは、今言った3点です。よろしくお願いします。

【鈴木会長】 それでは、事務局から、今の3点に対応して、どう考えているかということ。ちょっと今、すぐに忘れてしまうといけないので、3点目にご指摘のあった水たまキッズですけれども、「水たまキッズ」という見出しの「水たま」は平仮名で、本文中の「水玉」は、漢字の玉になっています。

【鈴木会長】 どちらかに統一というか、どちらが合っているのでしょうか。それでは、その3つのお答え。事務局から対応をお願いします。

【事務局】 誤字脱字の件に関しては、すぐに直します。申し訳ありません。水たまキッズの「たま」は、平仮名が正解になります。

【鈴木会長】 ごめんなさい。それから、今のところは、その「水玉」の「玉」が漢字のところの下の「選定」は、選ぶではなく、樹木を「剪定(せんてい)」するになっています。後で他にも含めて、よろしくお願いします。

【事務局】 サイクリングコースについては、一応これは実施事業等の名称になっていたので、「サイクリングコースの充実」で記載しているのですけれども。

【鈴木会長】 それは、私もずっとこだわっていることなので、実は事前に気が付いて、堀さんが今ご指摘のサイクリングロードの話は、事務局に、かなりきつく話をしました。それで、実際に資料1でサイクリングロードという名称が残っているのは、事業名称とし

て、初めからそれがセットされているということなのです。

それで、今の時点で変えられるとすると、この資料 2 の 10 ページ目なのです。これは事業報告なので、現時点での事業実施内容について報告できるということから、10 ページ目は、推進施策の No.19。これは、実際は「サイクリングロード」という名称なのですが、ここに載せるときは、「かわさき多摩川ふれあいロードの安全性の向上」というタイトルにしてもらっています。変えてもらいました。

お役所的に言うと、ここが事業内容だから、サイクリングロードとなるようなことを考えていたのですけれども、やはりそうではなく、愛称で付けたわけですから、事業の実施している具体的な、本質的な内容をここに入れて、それが施策事業名としては、表の小さいほうということで対応させていただいたということがありますので、ご了解いただければと思います。

【堀委員】 分かりました。

【鈴木会長】 そうすると、事務局、SDGs の根本的なところのことはどうですか。

【事務局】 SDGs については、川崎市の SDGs の推進方針がありますが、それに、一応多摩川プランの上位計画である総合計画の実施事業と SDGs の基本方針とを対応させている状況です。その対応している中で、多摩川プランの推進事業に関するところは冒頭の 3 つで、GOAL6 と 11 と 17 が対応しているという位置付けにされていますので、一応この「多摩川は今」には、そのような状況だということで載せました。各事業についても、来年、今後検討させていただきたいと思っています。

【堀委員】 これは、6 番目が「安全な水とトイレを世界中に」、11 番目が「住み続けられるまちづくりを」、17 番目が「パートナーシップで目標を達成しよう」という 3 つが、この新多摩川プランについては、SDGs の中で一番関係性が深いということで載せられたのだらうと思いますが、載せるからには、川崎市も SDGs を一生懸命やろうとしているわけですが、シンボルマークだけではなく、この 3 つが新多摩川プランの中に関わりを持っているということ、どこかに文言、文章化をしないと、ただ 3 つだけスローガンのようにシンボルマークを載せたのでは、意味がないのではありませんか。

ですから、どこかで、頭を使って書き込んでいただきたいというのが、私の要望です。

【鈴木会長】 事務局、堀さんのおっしゃることは、僕なども同感というか、SDGs の目標は、かなり大まかに。でも、全体的にすると、それを全部達成すると、本当に持続可能な発展ということになっていくというが、いざ身近なところに、それをきちんと実感するようなところでやるということがないと、結局それが大きいうねりになって、世界が一体になっていくというか、そうしないと駄目だということだから、基礎自治体では、やはり身近なところで実感するような説明が必要だと思います。

多摩川プランなどをやっていること自体も、その流れの 1 つだとは思いますが、より、なるべく市民の中にも啓発。世界の目指していくことが、自分たちの身近なところにもあ

るのだということを、それを全世界でみんなが進めていくことによって、というような意識が生まれると、世界の川崎、川崎から発信というようになるのではないかと思います。

【緑政部長】 分かりました。今の先生の話で、私ども川崎市も SDGs 未来都市という形になっていますので、各々の事業について、該当するものについてはマーク主体、もしくは、堀さんのおっしゃるとおり、ある程度具体的に文言で表せるような形であれば文言でということで、少し検討させてください。お願いします。

【鈴木会長】 他はいかがでしょうか。多摩川プランの実施状況、内容について。

【小野委員】 私からですが、資料 2 で QR コードを入れていただいたというのは、とてもいいと思います。ただ、実例がこの場で見られないのが残念かと感じています。

もう一点は、先ほどのサイクリングコースという言葉の話ですけれども、14 ページに、事業内容の一覧ということで書いていただいています。例えば注記のような形で、この事業名はサイクリングコースですけれども、実際の名称はふれあいロードという、少し注意を喚起するような記載の方法が要ると、皆さんのお話を聞いて感じました。

それから 2 点ありますが、これは事業内容に関わるものなので、あくまでもご参考として聞いていただきたいと思います。コロナ禍でコロナ対策ということで、イベント等ができなくなった状況はすごく理解できる場所ですが、今後は、恐らくオンライン開催のようなものが、イベントの形態の 1 つの標準のようなものになっていくと思われるので、そういうオンラインのイベントを、考えていっていただけるといいというのがまず 1 点です。

もう一点は、前にも言ったかもしれないですが、環境問題の中で、海洋プラスチックごみ問題が、今 1 つの大きな環境課題としてクローズアップされていて、昨日も NHK で特集されていました。それがごみの供給源と言ったらおかしいですが、川から流れ出るごみが海のプラスチックごみを増やしているという事実も、多摩川に関わる事業の中に、そのような海洋プラスチックごみの対応のような環境教育なり、対策イベントなりといったものを、事業として考えていっていただけるといいという、その 2 点を、今後のお話として提案させていただきます。

【鈴木会長】 ありがとうございます。事務局、今の小野さんのご提案に対して、既に、何か子どもたちのイベントの報告を Web 上ですというようなことは検討していますか。

【事務局】 そうです。オンラインに関しては、できることは、今後進めていきたいという形では思っています。

【鈴木会長】 多摩川プランで取り組んでいることが、何かあれば教えてください。

【事務局】 まず、オンラインのイベントですと、今回は水辺の楽校のシンポジウムが中止になってしまいましたが、できるシンポジウムの企画について、オンラインで開催して、少しずつ進めていきたいと思っています。それから、海洋プラスチックの件ですが、大師河原水防センターの管理団体が、運営方針としてマイクロプラスチックの問題も掲げており、運営の中で、環境学習を行う中で、そのようなごみの問題やマイクロプラスチッ

クの問題を取り扱って、環境学習の中で説明はしており、NPO 法人の取組の中で、そのようなごみの問題も、今、できるところをやっています。

【小野委員】 今、教えていただきました。ありがとうございます。今やられているところを少しずつということでしたので、今後は、そういうのが活動として広がっていくといいと思いましたので、現状でまとめることなく、活動を広げていくようなアプローチをしていただけたらうれしく思います。

【鈴木会長】 より進展させた方向で、来年度以降も心掛けていただきたいということですので、よろしくをお願いします。

【鈴木会長】 他に、江原さん、どうぞ。

【江原委員】 QR コードをいろいろ記載して、非常に分かりやすくなると思いますが、その中で、例えば 10 ページのかわさきふれあいロードです。このふれあいロードのマップの記載がないのは、少し残念に思います。いろいろな箇所にマップを設置したということですが、やはりふれあいロードのマップで、どういう箇所に、あるいはマップをどのように、ふれあいロードはどういうところが、というところを、やはり QR コードを使うか、あるいはマップを挿入するか、イラストマップです。ふれあいロード全体像を、やはり QR コードで記載するか、あるいは冊子に記載するかしていただきたいと思います。

第 2 点ですが、9 ページ上段のイラストマップがありますが、これが小さく、非常に見づらいです。これをそのまま細かく印刷すると、きれいにはなりますが、やはり非常に記載が見にくいということで、どういう整備状況かという地区が、多分このマップで見ると分かるということで載せられたと思うのですが、これが少し小さいのです。マップを拡大できないのであれば、QR コードを読み込むと拡大図が見られるなどという工夫をしていただきたいと思います。

11 ページの真ん中のレジャー利用の適正化のマップ。イラストの、いわゆるルール徹底の中で、やはりこういうマップがあるけども、これも小さくて、非常に分かりづらいです。

それから 5 ページに戻って、アユのクリアファイルというものもありますが、そういうマップが小さ過ぎるのです。イラストマップ。これも、やはり紙面上制約があるのであれば、QR コードで拡大図が見られるという工夫が必要かと思います。

第 3 点はふれあいロードの件についてですが、私自身、毎週ジョギングしており、行きは河川敷のジョギングコース、帰りはふれあいロードを往復して、大体二子橋から丸子橋。一番人通りが多い、あるいは河川敷で、いろいろなレジャーやスポーツ施設があるところですが、そこでふれあいロードの安全を勧告する看板。私も見ましたが、両面付いている看板と、片面だけのものがあります。それは、やはり両面にしていただきたいと思います。

それから、やはりその周辺は、二子に楽天という本社はありますが、外人さんが非常に多く、結構ジョギングやチャリダーの方が多いのです。前にも何回か申しましたが、やはり大きな看板の下に、少なくとも英字だけは表示してほしいと思います。

他には、看板の適正な配置や、その辺りは、二子と丸子橋の間の路面の表示を含めて、適正にされているのではないかと感じました。ぜひ、多文化都市を目指す川崎であるのでしたら、少なくとも英語表示。皆さんが、安全で安心できるようなロードにさせていただきたいとお願いしたいと思います。

【鈴木会長】 ありがとうございます。どれもごもったもな話だと思いますけれども、事務局で対応についてなにかありましたらどうぞ。

【事務局】 ふれあいロードの路面表示やマップの件に関しては、ホームページ等で紹介もしていますので、そこに飛ぶように、QRコードを記載したいと思います。他の事業に関しても、見にくいところに関してはQRコードを検討したいと思っています。

また、ふれあいロードの看板の英語表記について、それから両面というものに関しては、今年は、英語の表記が、正直なところ間に合わず、実は、わざと片面だけで済ませているところがあります。その両面ないところに関しては、できれば来年度に英語の表記の看板を付けたいと思っており、間に合わなかったというのがありますが、わざとやっていないところですので、来年度、英語表記に関しては設置等をしたいと思っています。

【鈴木会長】 ありがとうございます。寺尾さん、どうぞ。

【寺尾委員】 下流の殿町付近のことを1つ言わせてください。先ほど、江原さんからマップがというお話があり、実は1ページ目や、それぞれのページに多摩川の地図が載っていると思いますが、下流の殿町付近です。今、空港とキングスカイフロントへ結ぶ橋が、ほぼ完成しています。まだ名称は募集中だと思います。橋の名前は決定していませんが、1ページ目に載っているところに少し、工事中などと書いていただければありがたいです。

【事務局】 記載させていただきます。ありがとうございます。

【鈴木会長】 もうすぐ完成なのですか。

【寺尾委員】 ほぼ完成していると思います。取り付け道路がまだですが。

【鈴木会長】 そうすると、確かあそこは、橋のたもとの公園も拡張していましたよね？

【事務局】 キングスカイフロントのあたりですね。

【鈴木会長】 確か、あの辺りはだいぶ変わりますよね。そのようなことで、多摩川プランと関係しそうなことを、来年度以降の報告になるのでしょうか。

【事務局】 そうですね。まだ完成していないので、多分、来年度に決まるということのようなので、まずは工事中という形で記載したいと思います。

【鈴木会長】 分かりました。他にはいかがでしょうか。

【松井委員】 では、要望をよろしいでしょうか。資料を見ているのですが、事務局へのお願いです。担当局や担当課がありますが、我々が見るところ、建設緑政局が多摩川施策推進課ですが、その他として、教育委員会関係は全く書いていません。でも、我々がNPO多摩川エコミュージアムなどでいろいろな事業をやるときに、学校と連携しながら、子どもたちのふるさとづくり、子どもたちの体験学習ということでは、学校

が動いてくれることによって、相当子どもの認知度や親の認知度などが違ってきます。

そういうもので、担当局として、教育委員会はないのでしょうか。教育委員会が、子どもたちへの環境学習その他をやるために、実際に今でも時間や、多少の費用やその他を受け持っているのかもしれないけれども、それが書けていないような気がします。

こういう局があると、教育委員会関係があると、われわれは、非常にいろいろなことで、また交渉しやすいというか、プログラムを膨らませやすいのですが。

【事務局】 一応、担当局として、教育委員会もございます。

【松井委員】 教育委員会、書いてありますね。市民文化局、少しありますね。教育委員会、多少ありますね。教育委員会がもっと携わっているところが、たくさん項目としてあるのではないかと、われわれは考えるわけです。現実には、ここにあるいろいろなプランの事業の中で、教育委員会というか、地元の学校とタイアップして、すごくスムーズに行くところがたくさんあるので、もっと教育委員会の力を借りたらどうかと思います。

もう一つは、他局にわたって、われわれ後期高齢者でも、多摩川のことというとなんか元気になっている高齢者がかなりいます。そのようなところでは健康福祉局も関係してくるのではないかと、そういう地域のコミュニティーを考えると、そのようなことで、局がもっと他局にわたっていろいろ関係してくるでしょうと。そういうところとの連携がうまくいくと、スムーズに行く場合が結構あります。ところが、担当局に質問してみると、意外と何も知らないと、多摩川のことを分かっていないというようなことが結構あります。そういうことを感じていますということで、それに対して事務局で、もう少しこう動きますとか、こう改善しますというようなことがあれば、ありがたいです。

【鈴木会長】 ということですが、事務局は大丈夫ですか。そのように市民の方が実感しているのであれば、やはり何か工夫することも必要ですので。

【鈴木会長】 多摩川プランの実施に当たっては、今回の QR コードで、だいぶ内容が詳しくなることを含めて、毎年のようにプランの実施を、より良くするというのを、この会議ですべてと提言を続けてきましたので、それに応えてくれる事務局の働きを期待しています、と皆さんが思っていますので、よろしくお願ひします。

【堀委員】 1つだけお聞きしたいのですけれども、この「多摩川は今」の小冊子は、どういう場所に配布されるのでしょうか。というのは、ぱっと表題だけを見たときに、「多摩川は今」というと、まさに奥多摩から下流のところまでの多摩川はどうなっているのかなと、ふと思ってしまいます。

ここに書かれているのは川崎の多摩川なので、しかも、多摩川の右岸の部分だけなので、川崎市だけで配布されるのであればいいと思うのですが、もう少し多摩川流域全体に配られたり、あるいはそういうところで目を付ける方が多かったりすると、「あれ、『多摩川は今』って見たら、何だ、川崎だけじゃないか」と、素朴な疑問を持たれるのではないかと、お聞きしたのですが、どういうところで配布されるのでしょうか。

【事務局】 今のところは、川崎の市内だけで配布しています。川崎市内の区役所、図書館などに配布して、皆さんが手に取れるような形にしています。

【堀委員】 ということは、別段、他の東京都のほうや、あるいは、さらに上流のほうのこの部分は、あまり気にしなくてよろしいと理解していいですか。そうでなければ、小さな字でも、「川崎の多摩川は今」などと入れないと、誤解を受けるのではないかと思いますから、お聞きしました。

【松井委員】 それから、この冊子は、何部ぐらい印刷するのですか。

【事務局】 去年は 300 部です。

【松井委員】 了解です。随分少ないですね。費用の関係もあるでしょうけれども。われわれが地元で、小さな活動でも、このところで作ったのが、やはり 150、200 近くありますから。川崎市全体で 150 万人もいます。

【事務局】 各区役所さんに 30 部ずつぐらいや、図書館などにもなっているので、すみません。数はもう少し頑張りたいと思います。

【松井委員】 作るのも大変かと思うが、やはり、これを見てもらう人が増えて、多摩川に関心を持ってくれる人が増えないと、何もならないと思います。そういうことから見ると、部数は少ないです。上手に広報しませんと

【鈴木会長】 ありがとうございます。今回、いろいろと QR コードが付いたり、先ほどの Web でのイベントで、今後の展開を考えたりしたらどうかなど、いろいろありますので、ぜひそういうことも考慮しながら、皆さんに知っていただくのが大事だと思いますので、そちらもよろしくお願いします。

【松井委員】 こういう資料を作ることは、作る人たちは一生懸命やるけれども、では、大勢に見てもらって効果があるのかということ、意外とないと思います。ですから、もっと広報を上手にして、こういうことで多くの人に知ってもらうために作っているのだということを、よく意識しませんと。

【鈴木会長】 梅原さんが、賛同ということで大拍手しています。ありがとうございます。応援していますので、事務局も、しっかりとよろしくお願いします。

【鈴木会長】 他はいかがでしょうか。大体このあたりでしょうか。

【鈴木会長】 吉富先生、最終的な全体の講評も含めて総括をお願いします。

【吉富副会長】 今年も大変素晴らしい報告ができそうで、また皆さんからご意見を頂いて、充実した内容になりそうなのですけれども、1 点。今まで委員会でも意見が出ましたけれども、QR コードをこれだけ盛り込んで発行するのは初めてだと思います。これまで、こういう QR コードを付けて印刷物を作った経験から言いますと、この QR コードのリンク先が、ずっとあることが前提なのです。もし、これが途中でなくなってしまう、閲覧できないようになると、つながりませんという表示にずっとなくなってしまうので、この印刷物がどのように今後残るかということと、そのリンク先の情報がどれぐらい長期的に残って

いるかというのは、とても関係が大事で、そこを少し考えて、あまり細分化すると、そのページに行けなかつたりしますので。

例えば8ページの水辺の楽校の情報は、何か1つ、そこに飛ぶなど、少し調整をかけたときに、あまり細部の部分的なページの更新や追加があったときに、うまく飛べなかつたりするので、その辺りのWebとの関係はうまく考えておいたほうが良いと思います。これで、「見えないのですけれども」という問い合わせが過去にあったことが何度もありますので、そこは、必ず残るところにリンクするのが基本かと思いました。

それから、カードはとても良いと思いました。カワスイと連携して、生き物のカードが新しくできたということですが、これに「たまずん」はレアカードとして登場したりしないのですか。既にあるのでしょうか。何か活用の仕方や、少しブームを起こすような仕掛けがあったらいいと思いました。

【鈴木会長】 ありがとうございます。カードは7ページでしたか。先ほど画像では出てきたけれども、資料の中には、カードは1つもないけれども、7ページの上ですよ？

【事務局】 7ページの上に、今後掲載する予定です。

【鈴木会長】 そのカードは、どこかでもらえるのですか。先ほどの「たまずん」はレアカードで出る話も含めて何か……。

【事務局】 カードについては、NPOが補助金で作成しているものなので、今、販売をする予定はないのですが、作成したカードは、学校などの教育機関に配布される予定になっています。「たまずん」については、今はカードの中には入る予定はありませんが、これがきっかけで、カワスイといろいろ連携できるようになってきましたので、「たまずん」の活用についても、今、カワスイと協議をしているところです。

それから、QRコードについては、リンク切れにならないように、あまり細かいところに飛ばないようにはしたいと思っています。また、これは年度ごとの事業報告書で、毎年更新するものなので、毎年QRコードのリンクの状況は確認していきたいと思っています。

【小池委員】 よろしいですか。

【小池委員】 資料2ですが、今回は完成版ではありませんが、これは、完成版に近づいたときに、また意見聴取などはされるのですか。

【事務局】 現状でも、掲載する部署に関しては、お話をしています。

【小池委員】 組織も少し関係するのですけれども、印刷前に最終校正をし、いつ頃確認して、どういうスケジュールでやるのかを教えていただければと思いました。

【事務局】 3月中には内容確定したいと思っていますので、3月中に、関係する部署さまには確実に行くように考えています。それから、通常ですと毎年、最終確認という形では、委員の皆さまには、実は今回の資料で提示しているだけということにさせていただいているので、申し訳ないですが、この段階で確認していただくという形を考えています。

【小池委員】 分かりました。組織は、3月中に内容を再確認して、問題があれば送れば

いいということによろしいですか。

それから、この多摩川プランですが、作ったのが 2016 年です。10 年計画ですか。

【事務局】 はい。

【小池委員】 令和元年の東日本台風があり、河川に対する意識がだいぶ変わってきたというように、河川管理者としても感じています。樹木の問題。やはり「河積を阻害するので樹木伐採してくれ」とか、「河積を掘ってくれ」という話が、川崎市民の方々からも多く来ています。それから、このプランの中で気になったのが、川崎河港水門とスピードウェイでしょうか。こちらですが、河港水門は、あそこを使って砂利運搬している業者が撤退したということで、それから令和元年の台風で、ゲートから水が溢水（いっすい）したという話もあり、存続が今後どうなるかというところがあると思います。

まだ計画自体が決まっていませんが、10 年計画の中で、やはり途中で見直しなどがあつたときは、先ほども少し話がありましたが、修正していくべきところがあるので、この会議でもいいですが、そのようなフォローのようなことをしたほうがいいと感じました。

それから、最初にあった数値目標ですが、これは大変で、いろいろな計画で KPI ということで設定するのですが、やはり計画の最初の人に設定しないと、なかなか難しいとは個人的に思いました。よく使うのは、アンケートを使って意識調査をして、それが向上したなどというやり方もありますが、今回の中身は、数値目標は難しいと思いました。ただ、パンフレット等を配布した中で意識が変わっていくのを調査する、などというのを目標にしていればいいのかと。

【鈴木会長】 ありがとうございます。

【梅原委員】 少しだけ。

【鈴木会長】 梅原さん、どうぞ。

【梅原委員】 今回の QR コードを入れたのは、それはいい結果が出るだろうと思い、本当に素晴らしいと思います。もう一つ、この多摩川プランは、意外に近未来のプランのような感じがします。多摩川の近未来。私は、自分が子どもの母親として、子どもたちが成長した後、「この地球がどうなっているのだろう」、「この川などはどうなっているのだろう」というのが、すごく気になるのです。

それで、私も昨日はずっと NHK を見ていたのですが、先ほどのプラスチック問題。私がボーイスカウトのときに、多摩川でゴミ拾いをしたことがあります。プラスチックがたくさんありました。そういうことで、子どもたちに、このプラスチック問題のようなものをもっと分かって、これからの地球の未来のために知っていてほしいという思いがあります。ですから、そういうことも、そのプランの中にいろいろと入れてほしいと思うのと、私はかなり老人なので、子どもたちのことはともかくとして、今、私が多摩川に対してどう思っているかというのを言ってもいいですか。

コロナになってから、私も多摩川に近く、5 分で行けるので、散歩によく行きます。とこ

ろが、砂ぼこりがすごいのと、自転車怖いのと、多摩川を歩いても水が見えないのです。雑草ばかりで、遠くの川が見えません。木もなく、散歩していても楽しくありません。もっと楽しい、美しい多摩川べりを歩きたいというのが、老人としての私の願いです。子どもたち向けもいいですが、やはり、これから先長くない私たちのために、もう少し多摩川が楽しい場所であってほしいと思っています。

私は、今後、長期的なウォーターフロントプランを自分で考えています。ですから、本当はもっとそういうことを、今のことではなく未来的なことをお話ししたいと、いつかそういう機会があったらいいと思っています。

【鈴木会長】 ありがとうございます。先ほどの小池さんの話や今の梅原さんの話を聞いていると、割と時代が動いていて、川に対する……。子どもたちと川との接点をたくさんつくったりすることが増えているのは分かるのですが、人口は高齢者のほうが多く、一時は「福祉の川づくり」などというキャッチフレーズでやっていたこともあります。何かそういうことも視野に入れなければいけないし、洪水が多発する中で、川と人との関係も少しまた変わってきているのに、多摩川プランはどうあるべきかというようなことを基本的な話として認識していて、次の年。事業は単年度で、次から次へといくのでしょうけれども、大きな目標としては、少し考えることも必要なのだと実感しましたけれども。

【梅原委員】 「世界に誇れるウォータープラン、川のある町、川崎」が、私の長期実施計画です。

【鈴木会長】 下流のところも、橋ができて、また少し変わってくるようですし、その辺りも事務局で検討というか、少し考えていただきたいと思っています。

【梅原委員】 もっと先のことも考えてほしいと思います。

【鈴木会長】 他に、ご発言のない委員の方で、目黒さん、大丈夫ですか。

【目黒委員】 これは、いろいろなプランで、いろいろな活動をされていて、いろいろないいことを書かれています。ただ、やはり利用者に対しても、何か注意喚起ではありませんが、これからはそういうことを、一番後ろのページの表紙の裏でしょうか。その辺りで、よく見ると「多様性」と書かれていますので、そういうところ。いろいろなところをつくっていきこうと言われているのでしょうけれども、やはり一般の人が見たときに、「いろいろな活動はしているけれども、みんなの多摩川なので、こういうことは気を付けて、みんなできれいにしていこう」などというものが、一般の人向けで入ってもいいと思います。

【鈴木会長】 キャッチコピーのようなのも入れた方がという話ですね。

【目黒委員】 一般の人が見るという形でいくと、やはりいろいろな施策は大人が見るようなところで、子どもなどが見るのは自分たちが写っているようなものや、あとは何に注意しなければいけないのかなどがあると、みんなが見やすくなるかと思いました。

【鈴木会長】 ありがとうございます。議事の1のプランの実施状況と「多摩川は今」の冊子については、よろしいでしょうか。では、まだ何かお気付きの点がありましたら、

これを言い忘れてしまったなど、時間が限られてしまっているものですから、ぜひ、それは事務局に個別で言っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、議題の2番目は「その他」ですけれども、委員の皆さまから、あるいは事務局から、その他の内容で何かありましたら、ご発言いただきたいと思います。

【松井委員】 では、事務局にお願いです。NPO 多摩川エコミュージアムで、広報誌を2カ月に1回出しています。そういうものは、委員さんの皆さんには、届いてはいないのでしょうか。

【梅原委員】 いません。

【松井委員】 いないですね。見てもらって、いろいろなご批判、ご批評を頂ければありがたいと思います。われわれは、やはり多摩川全体を把握することはなかなかできませんが、中流域で、せせらぎ館で見える多摩川をいろいろ調査したり、企画したりしていますので、そういうわれわれの活動について理解する人を増やしたいということで、2カ月に1回、いい広報誌ができていると自負していますので、ぜひ皆さんに、読んで、ご批評を頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

【鈴木会長】 ありがとうございます。事務局は、その辺の対応をお願いします。

【寺尾委員】 すみません。そうすると、うちもお願いできればと思っています。事務局で、委員の皆さんに、せせらぎ館と一緒に送付していただければと思っています。

【松井委員】 うちの場合は、事務局に言えば、メールでも送れます。メールで、添付資料で、PDFで送れます。

【鈴木会長】 何か必要な情報を委員の方々に送るということは、心掛けていただければと思います。

【鈴木会長】 その他で、いかがでしょうか。

【事務局】 先ほど、小池さんや梅原さんから頂いたご意見がありましたが、実はそのようなことを議論したいと思っていたところで、まさに多摩川プランができて5年で、ちょうど折り返し地点というところがあります。その中で、台風19号の影響やコロナの影響と、いろいろ状況が変わっているところがあるので、今までの振り返りと、今後の5年と、さらにその先といったところを、意見交換ができたと思います。来年度、令和3年度の取組としてでもいいと思いますが、その辺りを協議させていただきたいと思っています。

【鈴木会長】 ありがとうございます。先ほどの小池さんと梅原さんの思いが伝わってきているようですので、ぜひ来年度は、少し振り返りと、もう一つの近い将来を少し変えていくようなこともあるかもしれません。

本当に時間ぎりぎりですが、他にはよろしいでしょうか。では、今日の議事は、ここで終えたいと思います。ご協力をありがとうございました。

それでは、進行を、僕から事務局にお返しします。

【事務局】 会長、ありがとうございました。

本日は、鈴木会長をはじめ、委員の皆様方により、活発な議論と貴重なご意見を頂き、大変ありがとうございました。事務局としては、本日頂いたご意見をしっかり受け止め、新多摩川プランに基づく施策推進をさらに進めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆さまにおかれましては、今後も力添えをよろしくお願いいたします。

最後に、事務局より連絡事項ですが、次回の多摩川プランについては、先ほどの話もありましたが、一応今年も7月ごろに予定しています。時期が来ましたら、事務局よりご案内したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和2年度第2回川崎市多摩川プラン推進会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。